

## 【おいしいレジュメの作り方】

何かを調べてまとめて人前で発表するというのは、就活でも、就職してからも重要。ゼミでの発表はちょうどよい練習になります。

### 1) 形式を守ることはとても大切！

- ・ 何のゼミで、いつ発表するものかをきちんと書くこと（右上みたいな↑）。
- ・ ページが複数になる場合は、ページ番号をきちんとつけること。
- ・ 左上をホチキスで止めること。クリップだとはずれやすい。
- ・ 手書きレジュメはダメ（どうしても無理なら仕方ないけど、ワードは絶対使えるように）\*1

### 2) ちょうどよい分量で見てもいいと、「わかってる！」感が出てくる

- ・ A4で2枚ぐらいでまとめる練習を。あまりにもあっさりしていると時間が余る。レジュメは簡単にして、あとは話術で勝負するというのができるならばいいけど、最初は詳しくまとめる練習をしましょう。書いてないことたくさん話しても、聞くほうの頭にはなかなか入らない。
- ・ 10ページ以上の力作を仕上げる人もたまにいるけど、あまり長いと、
  - ① そもそも時間内に全部読めない、
  - ② 逆にポイントがわかってないのではないかと思われがち、なので、メリハリをつけてびしっとまとめる練習をする。重要でないと思ったところは思い切って飛ばしてよい。
- ・ だいたい、①本文のまとめ、②他の文献で調べたこととの比較や自分なりの意見、が半分ずつぐらいがちょうどです。本文をだらだら紹介して2行ぐらい感想を述べるとかではつまらない。

#### ■ 見た目を工夫すると同じ内容でも頭に入りやすい？

重要なところは↑こんなふうに見出しをつけたり、字を大きくしたり、フォントを変えてみたり、図を描いてみたり、「見た目のわかりやすさ」も工夫する。字が詰まりすぎないように（逆にすかすかになりすぎないように）にも注意。

### 3) 内容について

- ・ このプリントみたいな箇条書きで、重要そうなところをまとめる。「これは！」と思ったところはちゃんとした文章で書いてみるのもよいです。
- ・ 「この問題は3点あって、①・・・、②・・・、③・・・」と番号をつけるとまとめやすい。似たようなものに「メリットは・・・、デメリットは・・・」など。
- ・ 「流れ」や「対立軸」を作るようにするとよいです。
- ・ 法律学のゼミなので、関連する条文は必ず調べてきてください。レジュメに書くかどうかは自由ですが、内容は説明できるように。条文はネットでコピペすればよし。

\*1 注がついてたりすると「なかなかやるな」と思われます。ワードの場合、「参考資料 →脚注の挿入」で。文献の情報や、補足的なことを書きます。

- ・ 参考文献を必ず紹介すること（←絶対！）。課題文献をとにかく読んでみた、というだけではそれ自体の理解もあやしくなる。他との比較が重要。
- ・ 定期的に図書館に行って、関連しそうなものを見てメモしておく。最近はネットで読める学術記事も充実しているので、まともなサイトのものを使うのはOK。サイニー (<http://ci.nii.ac.jp>) やグーグルスカラー (<http://scholar.google.co.jp>) など。wikipedia やまとめサイトなどをこっそり使っても教師には確実にばれます\*2。

#### 4) 引用・紹介の仕方

- ・ 「この点について、山田太郎は「AとBの2つの問題がある」と指摘（山田 2006：29 頁）」みたいな書き方がわかりやすくていいです。他人の意見を紹介する場合はめんどくさくてもひとつひとつこんなふうを書くこと。ちゃんと書かないのは盗作です。
- ・ 参考文献は最後にまとめるか、注の中に。↓こんなふうに書きます。

- ・ 鈴木一郎「民事と刑事の違い」『法律時報』2015 年 12 月号 ← 論文の場合
- ・ 山田太郎『よくわかる法律学』集英社、2016 年 ← 著書の場合
- ・ ロン・スミス（鈴木正夫訳）『アメリカ訴訟の現状』、講談社、2005 年 ← 翻訳の場合
- ・ 「法律と政治」（ブログ「ある弁護士のつぶやき」2010 年 10 月 10 日記事）  
(<http://arubengosiblog.com/4564213.html> : 最終閲覧 2020 年 1 月 13 日) ← ネットの場合

#### 5) 「自分の意見」って何？：それは「他の人の意見」を比較した上でのもの

- ・ 「自分の意見」は、「面白かった」とか、ただの感想ではだめ。①著者の意見、②それに反対する他の意見の2つを考え、比較した結果、自分はこう思う、というのが理想的です。他の意見も読んで考える、というのが大切。勉強してないけど自分なりに考えた！というので面白くなることはありません。たいていのことは誰かすでに言ってる。
- ・ どんな意見がいいかという、たとえば、
  - ① 著者はこんなふうに言ってるけど、Aも「……」と述べているように、○○○だから不適切ではないか、と**批判**してみたり、
  - ② 著者はこの問題をこれこれの点だけで論じているけれども、△△△のような問題もあるのでそれも考えるべき、というふうに、さらに考えるべき問題を指摘してふくらます、といったことがよいです。よってたかって文句つけるのがゼミというものなのだ。
- ・ もちろん、著者の言うことはすごい！と褒めるのもOKです。その場合、「なぜすごいのか」という理由を考えてみる。たとえば参考文献を紹介して、こいつはこんなダメなのに、この著者はここがちゃんとわかってる、えらい！という比較があるとよい。
- ・ 最後に数行で「まとめ」を作るとわかりやすいです。

\*2 大学の先生というものは、本もネットも、日本語で書かれているものぐらひは全部読んでいるぐらひに思っておいたほうがいいです。少なくとも「ああ、これはあれから取ってきたな」というのは一発でわかります。外国語のをこっそり使われたらすぐにはわからないけど、それができるんだったらこっそりではなくまじめに紹介するほうがいいと思う。